

平成 24 年度 終了評価書

研究機関 : (株)横須賀テレコムリサーチパーク、日本電気(株)

研究開発課題 : 高精度位置認識技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 22年度 ~ 23年度

代表研究責任者 : 坂村 健

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 21点 / 30点

[総合評価点: (1)+(2)+(3) × 2+(4)+(5)]

(総論)

測位精度3mという高い目標を巧みな研究マネジメントで達成している点は評価できる。

(コメント)

- 測位精度3mという高い目標を巧みな研究マネジメントで達成している点は評価できる。しかし、有効性の一般化、数多くの他社のトライアルに比して差別化して、技術展開していくには、更に開発と努力が必要である。
- 数値目標の実現に力点が置かれた計画が推進されたが、総合技術の実用化には社会展開の戦略が十分になされる必要がある。
- 視覚障害者が実際に参加する実証実験を実施して、ナビゲーション精度の有効性を実証した点は評価できる。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

屋内での高精度測位を多種の方式の組合せにより実現する方法は有効なものである。

(コメント)

- 測位精度3mを多種の方式の組合せにより実現する方式は有効なものである。
- インドアでの高精度測位のために、既存の測位技術を統合して実現しようとする試みは評価できる。
- スマートフォンが普及し、機能を組み込む環境が充実してきている一方、主導権を取ることは難しくなっている。このため、成果を社会展開することの難度は高まっている。研究の目的、目標の調整が必要であった。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

多種の方式を組み合わせる複雑な研究計画を、巧みにマネジメントして目標を達成している。

(コメント)

- 多種の方式の組合せには複雑な研究計画を達成するマネジメントは巧みに行われ目標を達成されている。
- 社会展開を考えたマネジメントが必要であった。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

評価実験等の実施により、規定した数値目標を達成されたことは評価できる。

(コメント)

- 参照用端末を活用した高信頼無線 LAN 測位、環境カメラ映像測位、携帯センサ自律航行型測位、携帯カメラ映像測位、知識活用に基づく自律航行型測位、異種測位情報統合・配信、空間コード活用による測位・空間情報の連携等の研究開発を行い、柏の葉における評価実験等、視覚障がい者向けの実証実験でその有効性を確かめた。
- 精度3mという高い目標は一応達成されていることは評価できる。しかし、現状では適用状況や評価設定が甘く、より一般的な状況で他を差別化できるかの証しがない。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

ITU-T SG16 の標準化活動については評価するが、取組については必ずしも充分とは言えない。

(コメント)

- ITU-T SG16 での標準化等に力を入れたことを評価したい。
- 国際展開については本計画の主題の点が十分でない。
- これまでの取組は必ずしも充分とは言えない。
- ビジネス性に裏付けられる社会展開のためのマーケット調査は十分とは言えない。
- 技術成果の公表が充分とは言えない。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

一応の目標達成のレベルであり、発展性を期待する。

(コメント)

- 今やバトルフィールドの中で、他をしのぐ明確な展望が開けているとは思えない。一応目標達成のレベル。
- 発展性を期待する。
- コミットする数値目標に加え、社会展開の戦略を立案して、その実現にとって重要な意味を持つ展開を期待したい。